

第3回 枚方市教育委員会協議会 会議録

開会	平成28年3月14日午後2時34分	閉会	平成28年3月14日午後3時12分		
日程番号	案 件				
1	叙勲について				
2	平成28年度中学生チャレンジテストの実施について				
席 委 員	議席番号	氏 名	欠 席 委 員	議席番号	氏 名
	1番	記虎 敏和		番	
	2番	徳永 博正		番	
	3番	山下 薫子		番	
	4番	吉村 雅昭		番	
	5番	村橋 彰	番		
説 明 員	教 育 次 長	高井 法子	説 明 員	教育総務課長	小菅 徹
	管 理 部 長	君家 通夫		学校規模調整課長	永田 昌宏
	学校教育部長	若田 透		教 職 員 課 長	大船 純之
	社会教育部長	中路 清		児童生徒支援室 課長(生徒指導担当)	狩野 雅彦
	管 理 部 参 事	俣野 浩一		児童生徒支援室 課長(人権・支援担当)	田辺 元美
	管 理 部 次 長 (参事級)	益田 正治		教 育 推 進 室 教 育 指 導 課 長	位田 真由子
	管 理 部 次 長	荻野 晋三		教 育 推 進 室 教 育 研 修 課 長 兼 教育文化センター館長	喜多 一友
	学校教育部次長	高橋 孝之		社会教育課長	米倉 仁美
	社会教育部次長 (参事級)	森澤 可幸		文 化 財 課 長	鈴江 智
	社会教育部次長	松宮 祥久		スポーツ振興課長	井岡 功一
	社会教育部次長 兼 中央図書館長	石村 和巳		中央図書館副館長 (課長級)(サービス担当)	松井 一郎
	児童生徒支援室長	足立 一彦		中央図書館副館長 (課長級)(企画担当)	中道 直岐
	教育推進室長	花崎 知行		教育総務課課長代理	本田 一成
	管 理 部 副 参 事	寺西 光治		傍聴の人数	1人
学 務 課 長 (副参事級)	早崎 由子				

○記虎委員長 それでは、教育委員会協議会を開会いたします。

まず、委員それぞれの活動についての所感などを報告したいと思います。

それでは、私からご報告させていただきます。

先月の定例会の後、いろいろと行事がありましたけれども、私自身、2月16日の文教委員協議会そして3月9日の教育政策会議に出席させていただきました。

今日の定例会の議題でもある、今後の枚方市の方向性、教育の指針として多くの内容に長い時間をかけて議論していただきました。全ての子どもたちの未来への可能性を最大限に伸ばす教育のために、それぞれの役割と責任を持ってこれが生かされていくことを願っております。

そして今日は中学の卒業式、中宮中学校に参列しました。中宮中学校では市歌を全員が歌ってくれまして、委員としての要望で市歌を何とか中学校あるいは小学校での行事に歌えないものかと要望をしていましたので、中宮中学校では歌っていただいた事にうれしく思いました。

また、非常におとなしく、落ちついた雰囲気の中で卒業式が行われました。校長先生は最後の挨拶の中で、非常に心配されていたとお話していましたが、中宮中学校では、教職員の前日までの指導によって、生徒全員が落ち着いて式に参加しており、本当にほっとしておられました。このように全員が1つになり、一致団結して指導にあたっているという意味では、本当にいい教育をしていただいているなど感じました。ありがとうございました。

それと、個人的なことなのですが、2月27、28日に、毎年行われている小学生のラグビーの全国大会、ヒーローズカップが開催され、枚方ラグビースクールも3年連続の出場を果たしました。高校大会の業績に続くよう優勝目指して頑張ったのですが、残念ながら7位となりましたが、全国7位ですからほめてやりたいなと思っておりますし、一生懸命に練習を重ねた努力の結果であり、子どもたちの限らない可能性を改めて実感しました。今後も、子どもたちには自分の可能性を信じて、中学校生活に生かしてもらえたらなと思っております。

また、高校生、小学生の活躍を機に、枚方市の発展に何かラグビーが生かされないかということで、2月と3月、あともう1回あるのですが、ラグビー関係者がそれぞれの熱い思いを語り合う集まりがありました。時間が経つのを忘れるほどの余りの熱さに、出席していただいた伊東衆議院議員、伏見市長も大変驚いておられました。何かを仕掛けるにしても、それを継続することが一番大事なことはないかと思っておりますし、継続する覚悟でいろんな面で事を進めていくということ、そういったことがやはり全員の意見の中に出ていましたので、一致した意見であったと思います。

今後も引き続き、いろいろと話し合いを持たれますので、また関係部署に何かとご相談する部分があるかもしれませんが、ご検討、ご協力よろしくお願ひしたいと思います。私は以上です。

それでは、徳永委員長職務代理人、お願いします。

○徳永委員長職務代理人 幾つかご報告ですけれど、1つ、2月17日に、この2年ほどの間、事務局の方々に話をしてきました平和教育、文化理解教育に関する事柄について、小学校の校長先生方何人かにお話しするという機会がありました。田辺課長からそういうご要望もあり、その席に臨んで、お話をいたしました。

いろいろな現場でこういうことに取り組むには問題点があるということを改めて感じながら、どんなふうにして進めたらいいかということをお互い考えていこうというように思ったところ

です。  
2つ目は3月1日に平和フォーラム、これは前年と同じような催しですが、今年はずらで子どもたちも参加する中で行われました。講演会は大坂空襲と香里製造所に動員された女学生たちについて、久保三也子さんという86歳の女性の方のご講演でした。数十年前に語る会をつくられたというような方ですので、お話は何度もこれまでなさったことかと思えますが、非常にしっかりしたお話をしてくださり、調べてこられたことも合わせたお話であったわけですが、やっぱりそういう方が話されると、そのときのことが思い起こされてこられるのかと思われるような真に迫った場面もあり、いいお話であったと思います。最後に自分が生き延びて、今この平和で豊かな時代にめぐり会えたのでよかったということもおっしゃっていました。ごく簡単な言葉ではありますが、非常に重い言葉であったなというふうにお聞きしました。

ちょうどその日は向かいの中央図書館で、平和資料室特別大坂空襲の写真展をやっておりましたので、それも見せてもらいました。見たことのあるような写真であるものもありますけど、生々しいものも含めて、なかなか見応えがありました。

続いて3月11日の平和の燈火で、夕方から岡東中央公園で人が集うというあの場面です。実はこの日は肌寒い日でしたが、親御さんに連れられた子どもたちもいて、風で消えたらろうそくをまた火をつけて回るといって、そんな動きもしてくれていたりもし、学生の歌声が響く場面に出会うことができました。

その日はサンプラザで「井上廣子一時の足跡を聴く」という企画展が行われておりましたので、それも直前に見に行きました。いろいろな写真がありまして、それを動くようなふうにしてあるわけですが、1枚だけ少し印象に残ったものを申しますと、中東のどこかの子ども、小学生くらい、日本でいえば、そのくらいの少年が大きな武器、ライフルですかね、それを地面につけて、前に抱えながら立っている、そういう子どもの様子というような、今の世界で起こっていることの一端を知らせてもらって、そういう場面がありました。

そんなふうには平和教育に絡んでは、この時期いろいろな催しがあり、今年も幾つか参加させていただきまして、いろいろまた思うところもございました。

さっき申しました2年前から問題提起をいたしまして、いろいろ研究をしていただきたいという気持ちでまいりましたが、もっと前からやっておけばよかったという気がしないでもありませんけれど、そういうことのおかげで先ほど定例会の案件中であつた指針の中にも部長から紹介のあつた平和教育の項目に文言をつけ加えてもらつたということもできたということでもあります。

なかなか大きな課題であり、こういうことをどんなふうにして学校で具体化するかということ、なかなかの課題であるということは確かであると思います。とりわけ若い教員の方にはいろんなことについてぶつかっていく、その柔軟性を持ってこのことへも取り組んでいきたい、そういう知性と感性を期待したいというふうには思います。

しかし、中でもやはり校長先生方には大きな視野、見識はお持ちいただいて、学校は学校での研究を進めるようにご努力をいただきたいというふうには思っております。

事務局におかれては、平和教育、国際理解教育、異文化理解教育ともどもいろんなふうに進んでいくことについて、事務局としての研究も続けていただくとともに、現場の方の取り組みが周知していくようにご指導を引き続きお願いしたいと思っています。何かこちらでできることがあれば、それはもちろんさせていただかなければならないとは思っています。

4つ目ですが、第1回のビブリオバトルというのが3月6日にありまして、これは中央図書館でありました。私、こういう場面は初めて見るということで楽しみな気持ちでまいりましたところ、中学生たちがグループをつくって、いろいろ自分が選んだ本について話をするという、そういった場面に遭遇いたしました。いきいきした感じが感じられて、よかったです。しかし、私が知っている本が全然無く、もう年がいったのでしょうけれど、ただ聞きますと、あそこへ出てくる中学生は、学校を通して参加申し込みをした者と、個人的に申し込んできた者とがあるとお聞きしまして、なかなか頼もしいことだなという気がいたしました。

このところ日本の大学生は本当に外国に比べて本を読まないというような調査結果であるとか、この間ある本を読んでおきますと、教員も本当に本を読まないとよく聞きます。ある大学の先生らの調査結果をもとにある本の著者がそれを書いておったのですけれども、確かにネット情報も貴重で、それに頼るという面があることは私もわかりますけれど、本の値打ちを感じつづけてきた者としては、若い人が本の魅力を見い出していってくれることを大いに期待するわけですが、そういう点でこんな催しもまた何か刺激になっていくと。初めてのことで、図書館の担当の方、大変ご努力、ご苦労があったと思いますけど、引き続きまたご苦労していただきたいというふうに思いました。

それと、先ほどの議事の中で委員長が辞職なさるということがありまして、これ今この場で言うのは適当かどうかわかりませんが、私としてはこれについては何とも言えない思いです。委員長はじめいろいろ私どもお世話になった方がこの年度末に、お辞めになる、職場が変わられるということはきっとほかにもあろうと思いますけれども、いろいろお世話になったことを思い出すにつけ、お礼を申し上げるしかないなという気持ちでおるということでございます。以上です。

○記虎委員長 ありがとうございます。それでは、山下委員、お願いします。

○山下委員 重ならない報告としまして、2月21日に市民ギャラリーで市内公立中学校生徒美術展を視察いたしました。日曜日にぎわう中だったんですが、今年は出展の中学校美術科の知り合いの先生に解説してもらいながら、一緒に作品を鑑賞しました。

中学生にもなると、ちょっとしたヒントを与えることで、思いもよらない創造性を発揮して、指導者の期待以上の表現が生まれるということを先生から聞きまして、この年代の子のしなやかな可能性みたいなものにすごく感心させられました。

私自身が中学校美術科教員の免許を持つ者として想像しますのは、年間35ないし45時間でこなしていただいている実技科目なんですけど、それが本当に指導者にとってとても時間の制約が厳しいだろうなということです。1コマの授業で準備と片づけをしながら、どれほどの時間、生徒が実技に打ち込めるのかなと考えますと、当然ながら先生が題材を厳選したり、緻密に段取りをしておくという必要があることを感じます。

それから生徒もある一定のルールの中で無駄のない作業をこなしていく必要があると思います。

芸術性以外の部分で学ぶこともたくさんあるだろうということです。これについては体育科の着がえとか、用具の準備とか、片づけとか、そういうことをいかに効率よく処理するかといったことなどにも通じるのではないかと考えています。義務教育の時期にはこういった制約された時間の中で一定の規律で行動する習慣を育てるということも大切なのかなということを感じました。

息子が高校、大学と進学して、もっと広域の仲間と出会う中で、必ずしも誰もが規律正しく物事を処理する習慣づけを身につけるような教育を受けているわけではないんだなということに気づいて、非常に驚いたという話を以前にもお伝えしたことがあります。

枚方の義務教育の過程で、例えば体育の準備に係る生徒の自主的な規律ですとか、学校の団体行事ですとか、そういったことから学ぶことは実は、非常に高度なことだったんだなということに気づいたようです。その行動規範意識というんでしょうか。そういったものがその後の学生生活でいかにプラスになっているかを改めて実感したということを書いていました。このようなことは中にいると気づきにくいもので、外に出て客観的に枚方でどういうことを教えられたかということ振り返ってこそ理解できることなのかなということを感じています。

私自身も枚方で子どもを育ててきた保護者として、例えば授業参観に行ったときなど振り返りながら、そういったシーンで感じてきたこととして、子どもたちの規律みたいところをしっかりと教えていただいていたという、そういうことを記憶としていろいろ思い起こしますので、この場でお伝えしておきたいと思いました。

これは決して数値化できるものではなくて、子どもたち一人一人に培われる、いわゆる教育の質というところの問題だと思っています。現場の先生方にはそういった枚方の教育のよい面に誇りを持っていただいて、さらに他市他府県のよい例にも目を向けながら、これからも教育の質に意識をおいていていただきたいと思っています。

それから、今日は枚方第二中学校卒業式に参列いたしました。卒業生の歌が本当にすばらしくて、それからその歌声の録音をきちんと録っておられて、それをその直後に、卒業生の退場のBGMに流すという先生方から卒業生へのサプライズがあって、最後は非常に盛り上がるラストシーンでした。

公立高校の一般入試が終わって、今結果を待つ落ちつかない時期だと思うんですけども、今日は教え子を送り出された先生方にとっては感慨深い日であっただろうなと思っています。

私は毎年この時期になると思い起こす忘れられないことがあるんです。それは我が子の話ばかりになって恐縮なんですけれども、高校受験と大学受験のときの出来事です。

高校受験のときは、明日が息子の高校受験という日の夕刻なんですけど、我が家に息子の担任の先生が来てくださいました。何と先生は仕事の帰りに明日受験する生徒の家を1軒ずつ自転車で訪問して、温かい激励の言葉をかけて回っているということでした。

そして全員に一本の鉛筆を配ってくださっていました。それにはお手製のシールが貼られて、「最後まで諦めるな」と書かれていました。親は子どもの受験では健康管理とお弁当の準備と忘れ物の点検くらいしかしてやれることがなくて、本当にそのときたまらない無力さみたいなものを思い知らされるものなんです。本当は親も不安で仕方がないということ子どもに見せないようにするのに精いっぱい状況です。

そして受験生はさらに本人にとっては今までにない大きな緊張を強いられていて、人生で初めての試練とも言えると思います。受験前夜のこの先生の励ましは今も忘れられないことで、親子ともども胸にしみわたるような温かいものでした。

いろいろな先生がいらして、生徒への激励の形も、先生の数だけ違うと思います。どの先生にもこのようにしてほしいという期待して申し上げているわけではありません。ただこの「最後まで諦めるな」というメッセージは次の世界に踏み出していこうとする生徒を送り出す先生方がみんな持つておられる子どもたちへの思いではないだろうかということを感じています。

それからその後、高校を卒業しまして、浪人生活で崖っ縁にいた息子たちなんですけれども、大学の合格発表の瞬間というのは特別な記憶です。ネット上に表示された番号を確認した途端、抱き合っ泣き崩れたんですけれども、すぐに職場の父親に報告を入れたあと、私はどちらの息子にも真っ先に報告したい大事な人に連絡しなさいといいました。そのときのことが忘れられません。彼らがどちらも一番に伝えたかったのは、仲のいい友達とか、熱心に指導してくれた予備校の先生かなと思ったのですが、何と高校と中学校の担任の先生だったんです。こちらからは涙で言葉になっていませんでしたが、電話の向こうではよく頑張った、おめでとうと言ってくださってる様子が伝わってきました。

子どもたちというのは、みんな幾つになっても、自分が頑張ったことを先生に評価してもらいたい、ほめてもらいたいと思っているんだなということがそのときよくわかりました。何の損得もなく、自分自身を評価して、ときには叱ってくれる先生こそが生涯の大切な先生なのです。それをつくづく感じた出来事です。「最後まで諦めるな」という、あの鉛筆は、実は大学受験のときにも息子の筆箱にお守りに入っていました。定年退職されていた先生にすぐ連絡して、鉛筆のご利益があったことを伝えられたのは何よりの報告となりました。

最近、中学校の受験にかかわる残念な事件が報道されたところですが、大切なのは先生の生徒への関わり方ではないかなと感じてなりません。教師という職業はときに人生の岐路に立つ一人の人間とどのような思いで向き合うのかということ、その姿勢が問われる厳しい職業であるということも思い知らされました。

しかし、子どものことを心から思って発する先生の言葉だったら、それは必ずその子の力となりますし、子どもの中にずっと生き続けます。枚方の先生方には先生という名前が「先に生きる者」だということだと思しますので、ときには大切な一言を投げかけながら、子どもたちをよりよい方向に導いていていただきたいなということを願って終わりたいと思います。

○記虎委員長 ありがとうございます。それでは、吉村委員お願いします。

○吉村委員 ありがとうございます。今、山下委員がおっしゃって、今も現在、まだ教育関係で学生対応等をおこなっている関係で、その旨を大切にかかわっていきなというふうなことは本当に強く日々思っておりますし、この枚方のこのメンバーと一緒に仕事できたことに関しては、非常に自分自身も感謝させていただきたいなというふうに思っております。

教員採用等について、本当に今、現場の一番最先端の情報等を知っているという職場の立場上、大阪府自体が採用関係でいいますと、従来ありました日程を変更して、7月の第1週目から採用試験が行われます。それから試験の内容も教職教養がこの2年間、100%であったのが、この平

成28年に行われるものから、その中身については論理的思考であるとか数的理解とか、あるいは俗に言う一般教養というよりも、大学でいうSPIという、現場に出たときに考える1つの指針といえますか、これは公務員試験の中にはよく使われてるのですけれども、これがいよいよ教員採用の中にも2割で入ってきて、そこもはかられてくるということです。

それから、大阪府だけではなくて大阪市が少し遅れて打ち出した人物重視と、それから実技重視、専門性重視というところが2次のほうにどんどん入ってくるというところ。このあたりが今後、新たにいろいろと狭き門になってきますけれども、教員を目指す人たちのば広い知識とか、人物とかいうことが本当に大切になってくるのかなと。一重にそういう人物が子どもたち一人ひとりの気持ちに寄り添って、本当にいろんなことを総合的に自分自身も含めて判断していくように、もちろん本を読むということも含めて、単に学校の仕事だけでやるのではなくて、時間的な制約とか、大変なことはわかりますけども、例えば部活動等の持ち方とかいうのも、論議されております。時間を子どもたちのためにどう費やしていくのかなというふうには、こう、本当に枚方市の先生方が研修も含めて、しっかりといい人材が子どもたちを育てていくというふうなことはもう間違いないことですので、思いを持って学力だけで捉えることなく、ハートのある先生方がもっともっとたくさんミドルリーダーを育成をしていただいたらなというふうに思っています。そのためにはできるだけお力をお貸しできることがありましたら頑張っていきたいなというふうに思っています。

卒業式は、本日、桜丘中学校に行かせていただきました。先ほど委員長からありましたように、市歌をピアノ伴奏で国家、市歌、それから校歌という形で3連発でピアノ伴奏を、卒業生が弾いてというふうなことで、非常に僕が今まで行った学校の中で、市歌をピアノ伴奏とする卒業式は初めてでしたので、非常に新鮮に感じたといえますか、それも先生方のご指導もあったと思うんですけども、本当に各歌ともしっかりと大きい声で一息懸命歌っている姿がすごく印象に残りました。

そういう形で1つでも2つでもその中に市歌という部分について気持ちを持っていってもらえるような、そういう式典等が今後もふえていくことを期待しております。以上です。

○記虎委員長 それでは最後に、村橋教育長、お願いします。

○村橋教育長 私、本日の卒業式、杉中学校へ行ったんですけども、7クラス283名の卒業生ということで、読み上げるだけでもう40分かかりますと、式場に入るまでに校長、教頭とそういう話も、それは大変ですねという話もしながらでした。

杉中学校も合唱はすごく力を入れて、市歌ももちろん歌われて、子どもたち本当にいい形で厳粛な雰囲気の中で式がとり行われました。

校長先生の式辞も感謝の気持ちを伝えるということの大切さということをお話されておりました。卒業生の一人一人が、しっかりそれを聞いていたというのが目に焼きついています。

今日も案件で出ていたのですけれども、補助執行の案件が出ておりましたけれども、この平成28年度というのは教育委員会にとって大きな節目、変わり目の年になります。組織自体も本当に大きくなっていきます。その分、今もオール委員会としての機能というのはすごくいいと思っています。さらに縦糸と横糸、さらに強化をして、このオール委員会の今の組織体制をさらに大き

くして行って、組織力というものを大切にしていってほしいなと思っています。

この時期なので、式辞の話を少ししましたけれども、自分だったらこういうことを言いたいな等思ってしまうのですが、「あさが来た」を見る中で、明治、大正、昭和と生きてきて、日本をつくってきた人、非常におもしろいなど興味を持って、最近読んだ本の中に、阪急グループの創業者の方の言葉なのですけれども、出世の道は信用を得ることであるということで、この出世の道ということの言い出しなのですけれども、しかしこれは仕事をする上で大切なこと、相手と関係を築いていく上で大切なことということに置きかえられると思うのです。

その言葉の中に、3つあるのですけれども、第1の条件は正直でなければならない。あの人に気を許すことはできないなと思われたら、もうそれで終わってしまうという。まず正直でなければならない。それが第1の条件。

そして第2の条件は礼儀を知っていること。荒っぽい言動では信用は得られないのだと。私はその3つ目の条件が非常に印象的だったのですけれども、3つ目の条件として、物事を迅速、正確に処理する能力があるかどうか。これが問われると。つまり頼まれた仕事を、催促されるようでは信用は得られないと。

もう1つそこから読み取れたこととして、凡事徹底ということも読み取れました。どんなに才能とか手腕があっても、平凡なことを忠実に実行できなければ信用とかは得られないと。まさにそのとおりだと思ったのですが、そういう中で最初に言いましたように、ますます組織自体も大きくなる中で、どういうふうに仕事をしていくかと。学校、小中学校、それぞれ管理職もどんどん変わっていく時代を迎えています。そういう中で、本当に連携ということをしっかりつくってもらって、仕事にあたっていただきたいなと強く思っております。

○記虎委員長 ありがとうございます。

それでは、事務局からの報告案件ですが、案件1について説明をお願いします。

大船教職員課長。

○大船教職員課長 案件1、叙勲についてご説明いたします。恐れいります、資料1ページ、叙勲についてをごらんください。

1. 概要ですが、元枚方市立小学校長及び中学校長について、内閣総理大臣からその功勞に対し、叙勲が行われましたので報告するものでございます。

2. 内容ですが、瑞宝双光章を元枚方市立菅原小学校長、米谷三男先生と、元枚方市立第一中学校長、今出金仁先生が受賞されました。

3. その他といたしまして、ご自宅にて伝達済みでございます。

以上、甚だ簡単ではございますが、案件1、叙勲についての説明とさせていただきます。

○記虎委員長 この件についてご意見、ご質問等がありますか。

ご質問等はないようですので、本件については説明の聴取程度にとどめます。

続きまして、案件2について説明をお願いします。

位田教育指導課長。

○位田教育推進室教育指導課長 案件2、平成28年度中学生チャレンジテストの実施についてご説明申し上げます。



資料の2ページをごらんください。

まず、1.趣旨ですが、平成28年度中学生チャレンジテスト実施要領に基づき調査に参加いたします。なお、調査結果については、これまで本市が実施している全国及び大阪府学力学習状況調査結果、中学生チャレンジテスト結果の構造の方針を踏まえ、結果概要、設問ごとの正答率等の公表を行うことを考えております。

続きまして、2.目的でございますが、平成28年度中学生チャレンジテストに枚方市立中学校が参加することによって、府全体等の状況との関係において、本市生徒の学力や学習状況を把握分析し、本市生徒の課題解決に向けた努力の成果と課題を検証することで、今後の教育政策や、教育指導に反映させ、本市生徒の学力向上を図ることを目的といたします。

また、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料として、大阪府教育委員会より提供された「評定の範囲」、「府全体の評定平均」を活用し、学校の評価活動の改善等充実を図ることを目的といたします。

続きまして、3.内容・実施時期等についてでございますが、平成27年度の調査より変更された2点についてご説明いたします。

変更点1点目はこれまで第1学年、第2学年のみの調査でございましたが、平成28年度調査では、第3学年も実施されることとなりました。

第3学年は平成28年6月23日（木）、第1学年及び第2学年は平成29年1月12日（木）が実施日となります。

続いて変更点2点目は大阪府教育委員会が「府全体の評定平均」を作成することについて明記されました。これは平成27年度も評定の目安として試行的に大阪府教育委員会が作成し、活用しておりましたが、正式に活用することとし、同様に支援したものでございます。

なお、詳細につきましては、平成28年度中学生チャレンジテスト実施要領に添付しておりますのでご参照ください。

4.総合計画等における根拠・位置付け、5.関係法令条例等については、資料にご記載のとおりとなっております。

以上、甚だ簡単ではございますが、案件2、平成28年度中学生チャレンジテストの実施についての説明とさせていただきます。

○記虎委員長 この件について、ご意見、ご質問等がありますか。

質問がないようですので、本件については説明の聴取程度にとどめます。

それでは、本日の協議会の案件は以上となりますので、協議会を終了とします。